

# 全ゲノム配列を対象とした、POU/SOX因子の機能的な制御標的の予測法の改善

大阪大学大学院生命機能研究科 近藤寿人、Munazah Andrabi

目的: POU転写因子群、SOX転写因子群の作用特性をもとにして、マウスゲノム上の、それらによる制御標的領域を予測する

内容: 胚発生を制御する、SOX転写因子やPOU転写因子は、SOX-POUなどの複合体を作って作用する。マウスゲノム上でPOU/SOX因子がかかわる機能的な制御領域を予測する方法を昨年度開発したが、ChIP-Seq(chromatin immunoprecipitation-sequencing)によるデータを参考にして、予測法のrefinementを行った。

結果: 既知のChIP dataによりよく合致するように、ゲノムの局所的な性質と転写因子結合配列の評価に関して、新たなパラメーターを導入して、予測法を大幅に改善できた。

使用した計算機: PC Cluster  
CPU時間: 100 時間  
使用メモリ: 16GB  
ベクトル化率: 0  
並列化: 無し

## Method for Identification of Motifs

